

T C W Tokyo Creative Weeks

www.tcw2012.jp



キタイも、
ソウゾウも。

平成 24 年 10 月 2 日

東京文化発信プロジェクト

公益財団法人東京都歴史文化財団

当プレスニュースレターでは、東京クリエイティブ・ウィークス (TCW) の見所をさまざまな切り口からご紹介いたします。

「キタイも、ソウゾウも。」東京文化をたっぷり楽しむ3週間

秋風が心地よく感じられるようになりました。この秋、東京文化発信プロジェクトでは、昨年よりさらにパワーアップし、10月10日(水)~31日(水)の22日間にわたり「東京クリエイティブ・ウィークス(TCW)」を開催いたします。日々行われる『伝統』『国際性』『現代性』をテーマとしたイベントでは、多くの方に参加、体験していただけるプログラムが目白押し!そこで、「東京クリエイティブ・ウィークス」の見所を、期間中のスペシャルプログラム 国際会議「文化の力・東京会議」にも出席される公益財団法人東京都歴史文化財団のアドバイザーと参加アーティストのインタビューを交えてご紹介いたします。

伝統と現代、東京と世界、文化でつなげる喜び、つながる希望

「東京クリエイティブ・ウィークス」から、第二の開国宣言!



今年の「東京クリエイティブ・ウィークス」は、伝統と現代、東京と世界など、さまざまな視点から東京の文化を体験できる3週間。「文化の力で社会変革」と題され行われる「国際会議」でのパネルディスカッションの司会を務める公益財団法人東京都歴史文化財団 エグゼクティブ・アドバイザーの加藤種男は、企業の芸術文化活動(メセナ)を幅広くリードし、東京文化発信プロジェクトの事業全般のアドバイザーとしても活躍中。「東京クリエイティブ・ウィークス」の根幹に流れる東京文化から発信されるメッセージについて伺いました。

公益財団法人東京都歴史文化財団 エグゼクティブ・アドバイザー 加藤種男

“創造都市”としての東京文化の再構築

—「東京都歴史文化財団」のエグゼクティブ・アドバイザーとして活躍されていますが、どのような活動をされているのでしょうか?

20年ほど企業の文化芸術活動(メセナ)をしてきましたが、10年前から文化や芸術をもって都市を創造し活性化する仕組みづくりを行うようになりました。きっかけは、横浜市を“創造都市”として再構築する仕組みづくりを行ったことです。創造都市とは、その都市の持つ眠っている都市遺産を発掘、活用することで街を元気にすること。横浜では港エリアに

銀行として使われていた歴史的建造物があり、それを文化芸術の創造拠点として再活用しました。この施設は「BankART(バンカート)」という名で活動を始め、アートイベントの企画・運営の他、街づくりなどさまざまな取り組みを行っています。今では横浜全区に、そのような創造拠点が100近くにまで広がり、民間団体やNPOが運営しながら、それぞれの団体がネットワークを結び、地域の活性化に貢献しています。その経験をもとに、東京を創造都市にする仕組みづくりをすることになりました。

— 東京を創造都市とするために、どのようなことを行っていくのでしょうか？

1つ目はコミュニティの再生です。現在、日本全国、地方の疲弊が激しい。理由は都市への人口集中によるコミュニティの崩壊ですが、同じことは東京でも起こっています。文化芸術の力でコミュニティを再生し、新しいコミュニティをつくっていく必要があります。問題解決のためには、創造都市が重要です。

もう1つは世界における日本の孤立です。特に東アジアでの孤立を克服する必要があり、それには“文化の力”が不可欠。日本の文化が世界に寄与することで世界とネットワークを築き、孤立を防げると考えています。TCWでのイベントのひとつ、国際会議「文化の力・東京会議」では、日本の文化、東京の文化の役割を発信します。また発信と同時に世界の多様な文化も取り入れ、相互理解を深めたいと思っています。

今の時代に即した究極の「コミュニティ型」アートを東京から発信！

— 世界に発信していく「東京文化」とは何ですか？

東京文化の前に、日本文化の特色をお話しします。例えば日本文化の中には食文化がありますが、日本食は自然の素材に手を加えていないように見せる高度な技術と洗練されたデザイン力があります。和食は色彩など物事をありのままの自然の姿で届け、さりげなく相手を思いやる日本独自のおもてなしの文化が礎になっています。

もうひとつの日本文化の特色は、「祭り型文化」「コミュニティ型文化」です。東日本大震災の際、地元の人々を元気づけたもののひとつに郷土芸能があります。郷土芸能が多くの方の心の支え、生きる力を呼び起こしました。再び郷土芸能を復活させようという機運が起こっていますが、祭り型文化の特長は自らが進んで参加し、一人ひとりが主役となり、みんなでつくってみんなで楽しむコミュニティ型アートだということです。元々、祭りの観客というのは唯一神様だけで、神様に捧げるため、氏子たちが力を発揮する。一人ひとりが主役となり文化を楽しむことが「祭り型文化」なのです。

一方、一人の才能ある人物がつくったものや演奏



をみんなが見ることは「西洋近代型芸術文化」です。多くの日本人がこのような近代西洋のアート活動が芸術のすべてだと思っていますが、今後は日本のコミュニティ型アートを世界に発信していくことが大切だと思います。

— 祭り型文化の具体例を教えてください。

松尾芭蕉が奥の細道の最中に行く先々で行なっていた“俳諧の連歌”ですね。連歌とは和歌を使った文芸のひとつで、和歌の上の句（五・七・五）と、下の句（七・七）を多数の人が交互につくり、お互いの句をつなげて楽しむものです。江戸時代はどの村でも連歌が盛んで、そこに芭蕉が訪ねることにより、コミュニティの表現活動にインパクトと深みをもたらした“座の文化”が発達したのです。まさに究極のコミュニティ型アートです。今、この時代、江戸の価値観を受け継ぐ現代に即した究極のコミュニティ型アートが必要だと強く感じています。そしてそれを発明し、東京から発信したいと思っています。

東京の創造文化拠点をつくり、世界中の人々と新たな文化づくりを目指す

— 東京文化は、今後どのようにしていくべきだと思いますか？ またそうすることによって、東京はどう変化していくのでしょうか？

「世界的な文化創造都市・東京」の実現に向けて、



日本と世界の協働プロジェクトに発展させる素地づくりを行っています。世界中の文化のクリエイターを招聘し、東京がコーディネーターを務め、新たな文化の仕組みそのものをつくらうと考えています。

例えば安土桃山時代には、そのモデルがあります。世界の文化が日本に集まり、日本はさまざまな文化を取り入れて新たな文化形成を行ないました。南蛮文化がその代表です。当時の日本人は、世界中の文化をうまく取り入れ、独自の文化にすることができたのです。しかし明治維新では必ずしも成功しませんでした。今、世界中が日本に注目しているこの時期にこそ、世界中の文化発信者とともに、新たな文化創造の構築をしたい。新たな夜明けですね。

— 私たちがなすべきこと、できることは何でしょうか？

ぜひ「東京クリエイティブ・ウィークス」に参加していただき、自分たちができることを提案していただきたいと思います。そのために、「東京ア

ートポイント計画」を行なっています。「東京アートポイント計画」は、人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京のさまざまな魅力を創造・発信することを目指しています。「アートポイント」とは、アートによって結ばれた、人・まち・活動の接点。東京が世界のアートポイントのコーディネーターができるようにしていきたいと思っています。

— 東京と世界を文化でつなげるということですか？

そうです。今日本は、世界の人々とコミュニケーションを行なっているように見えますが、実際には鎖国状態のように感じます。ビジネスでは世界とつながっていますが、精神的な部分では鎖国状態のように、私には見えるのです。何を怖がっているんでしょうね？ 閉鎖性を打ち破ってほしい。今こそ日本文化で第二の開国を行い、世界の人々とコミュニケーションをしてほしい。そして、日本文化のおもしろさを発信していくには、日本人が日本の文化をもっと理解する必要もあります。

— 今年の「東京クリエイティブ・ウィークス」に期待すること、注目されていることを教えてください。

今年の「東京クリエイティブ・ウィークス」の中でも特に期待をしているのは、若い演出家が新しいプログラムをつくる「フェスティバル / トーキョー12」ですね。若い方のチャレンジングな試みを体験できますし、メジャーなものだけに光を当てるのではなく、通常光の当たらないところに光を当て、新しい可能性を見つけることができます。そこには色々な人々の物語があり、それをどれだけ発掘できるかが大切なポイントです。みなさんも、ぜひ「東京クリエイティブ・ウィークス」に参加して、そんな物語をたくさん発掘していただきたいと思います。

公益財団法人東京都歴史文化財団 エクゼクティブ・アドバイザー 加藤種男

1990年、アサヒビールが企業文化部を創設した際に入社。以後同社の社会貢献部門の推進役となる。特に、アサヒ・アート・フェスティバル、アサヒビール大山崎山荘美術館の立ち上げなど、企業の芸術文化活動（メセナ）を幅広くリード。2004年から、芸術文化創造都市をめざす横浜市の文化政策推進の旗振り役も務めた。京都造形芸術大学客員教授、日本NPOセンター評議員。2008年度芸術選奨文部科学大臣賞（芸術振興部門）受賞。2010年より、公益財団法人東京都歴史文化財団 エクゼクティブ・アドバイザーに就任。

互いの交流があってこそ、自国の伝統文化の良さもわかる。海外に出やすい環境を！

テクノロジーやデザインをアートで融合、未来につなぐ東京文化を提案！



テクノロジーによって変化していく人間の在り方や社会を反映させた作品をソーシャルメディア上で展開したり、ニューヨーク近代美術館や東京都現代美術館などで作品が取り上げられ、また作品が数々の賞を受賞したりと、今話題のアーティスト、スプツニ子！さん。「東京クリエイティブ・ウィークス」のプログラムのひとつ『国際会議』のパネリストとして登場します。日本人の父と英国人の母を持つ国際的な彼女が描く未来の東京文化とは？

アーティスト スプツニ子！

テクノロジーとアートの狭間で……

ーアーティスト活動をされるようになった経緯や理由などを教えてくださいませんか？

テクノロジーは人のライフスタイルに影響を与えるものなのに、研究する場に女性が非常に少なく、女性がテクノロジーに積極的に関わっていくことは大切なんじゃないかと思っていました。そんな問題を、これから自分はひとりのサイエンティストとして解決するか、コミュニケーターとしてアート作品で表現して広めていくのと、どちらなのかな？と思っていたんです。そんなとき、通っていた大学の隣にロイヤル・カレッジ・オブ・アートがあって、そこでアートの世界を学び卒業制作をしたところ、その作品が東京都現代美術館とニューヨーク近代美術館に展示され、「それじゃあアーティストが向いているのかなあ？」とアーティストの道を歩んでみることにしました（笑）。

ー「菜の花ヒール」という作品がとても気に入りました。この作品に込めた想いは？

東日本大震災での原発事故は、テクノロジーの過信で安全神話が崩れ、そこに住んでいる人たちの生活がひっくり返されてしまいました。これは絶対に現場を見ておかななくてはいけないし、どう訴えて行くかを考えたとき、悲観的な作品にしたくないと思ったんです。現状をどう打開できるんだろう？ どういう風にもっと良くできるんだろう？と前向きに考えました。

どのように事故を乗り越えていけば良いのかとリサーチを始めてわかったことは、「チェルノブイリ原発事故」で汚染されてしまった土壌に「菜の花」を植えるというプロジェクト。菜の花が広大な汚染地域の放射性物質を吸収してくれることや、得られる

油はバイオエネルギーとして活用できることがわかり、菜の花を植えるプロジェクトは、現地の人にも一般の人にも受け入れられやすい。そこで自分の足で前へ進んで行こうという意志と、土地を再生させる菜の花の種を蒔いていくという意味を込めて、本当に履いて歩くと種まきのできる「菜の花ヒール」を創ったんです。これには自分の歩いた足跡から菜の花が咲くというイメージもあるのです。

ロンドンと東京のアート環境

ーロンドンで過ごし、現在は東京にいますが、両都市の共通点や違いについて教えてください。

東京生まれ東京育ちなんです。人々は眠らないし働くし、遊ぶし……、そういう意味では東京はニューヨークやロンドン以上の街ですね。エネルギーが凄い。眠らない街＝ハイパー・アクティビティ。

小さな頃から両方を経験してわかったのは、人種だとか民族だとかいうカテゴリーで括ることの危険性ですね。だって人それぞれなんでもん。ロンドンも東京も全然違うけど、共通しているのは人のエネルギーと、仕事に対するプライド。クオリティを追求する気持ちに差はないです。

東京との大きな違いというのは、ロンドンという街は英語という土台の上に建つ、多民族が暮らすイギリス人だけの街ではないということなんです。人の流動性という点から見ても、東京はやっぱり日本人の街だと思うんです。ロンドンと比べても、東京はまだ格差社会ではなく、まだ人が守られていると思います。思いやりやモラルといった安心からくる心の余裕というのが感じられる街なのですが、日本も海外もお互いに交流をしないと、それぞれの伝統文化

の良さにも気付けないと思うんです。

—「国際会議」のパネリストとして、どのようなことを提案されたいと思っていますか？

東京の人はもっと海外へ出て、海外の人にはもっと東京に来てもらうようにと提案したいです。そうすることで、東京の人がより良く東京を理解して、東京を良くすることにつながっていくと思うからです。特に若者は今、海外離れが進んでいると言われていますが、国の施策などで、たとえば「青春 18 きっぷ」みたいな「青春 18 フライト」のような物をつくって海外に出やすい環境にするというような提案もしてみようと思っています。

—TCW でスプツニ子！さんが注目していることを教えてください。

今、東京文化発信プロジェクトが進める「アートアクセスあだち 音まち千住の縁（足立区で行われているアートをういた市民参加型のプロジェクト）」に関わっています。でも、こういったイベントって中高生がなかなか参加してくれないんですよ。そこで私に白羽の矢が立ったんです。足立区で活動している HIPHOP のラッパー達と一緒に新たな「コミュニティデザイン」をつくるプロジェクトなんです。そこで、自分が住む街についての想いなどをラップの歌詞にして、中高生と一緒にワークショップでやってみよう。東京文化発信プロジェクトというフォーマルな雰囲気のもの、それとは相反する雰囲気を



持つ、やんちゃな若者ラッパーを結びつけて活性化してみたいと思ったんです。アートを外から持って来るというのではなく、足立区の中にいるクリエイティブな人たちをつないでいきたいと考えました。子供にとっても、自分のとても身近なところに、そんなアーティスト的な人たちがいるんだ、ということに気づいても欲しいんです！

こういうイベントって、実績のあるなしにかかわらず、何が起こるか予想さえできないような人たちに夢を託していくことがとても大切だと思うんですね。東京文化発信プロジェクトが、公的にこうしたイベントを応援してくれるのはとても素敵なことだと思います。

私も東京クリエイティブ・ウィークスの期間中の、あらゆる可能性にワクワク、ドキドキしています！

スプツニ子！ (SPUTNIKO!)

アーティスト。1985 年東京都生まれ、東京・ロンドン在住。神戸芸術工科大学大学院客員教授／経済産業省クールジャパン官民有識者会議民間委員。(株)リクルートメディアテクノロジーラボ顧問。

両親ともに数学者で、英国人の母と日本人の父の間に生まれる。ロンドン大学インペリアル・カレッジ数学科および情報工学科を 20 歳で卒業後、フリープログラマーとして活動。その後、英国王立芸術学院 (RCA) Design Interactions 科修士課程を修了。在学中よりテクノロジーによって変化していく人間の在り方や社会を反映させた作品を制作。2009 年、原田セザール実との共同プロジェクト《Open_Sailing》が、アルス・エレクトロニカで [the next idea] 賞を受賞。2012 年より神戸芸術工科大学大学院客員教授。主な展覧会に、「東京アートミーティングトランスフォーメーション」(東京都現代美術館、2011)「Talk to Me」(ニューヨーク近代美術館 (MoMA)、2011) など。

No.	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	No.	プログラム名	事業名/施設名
	tue	wed	thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed			
00																							00	トークセッション リレー・フランキーズ x YOU	東京クリエイティブ・ウィークス前夜祭	
01																								01	文化の力・東京会議(10.19・20) / 国際招聘プログラム(10.21～29)	国際会議 / 国際招聘プログラム
02																								02	三弦 海を越えて～アジアから日本へ	東京・伝説WA感動
03																								03	Traditional + [vol.2] LIVE アニメーションと演劇	
04																								04	東京大茶会2012	
05																								05	伝説芸能 SHORT TRIP in 羽田	
06																								06	たった一人の中庭	
07																								07	女司祭 危機三部作 第三部	
08																								08	F/T ステージン	
09																								09	「運命」劇団、本谷有希子	芸術プロジェクト
10																								10	まちなかコンサート～芸術の秋、音楽さんぽ～	Music Weeks in TOKYO 2012
11																								11	ワークショップ「オペラをつくろう」	青少年のための舞台芸術体験プログラム
12																								12	Sound Live Tokyo	Sound Live Tokyo
13																								13	アートと音楽ー新たな共感をもとめて	東京アートミーティング(第3回)
14																								14	Tokyo Sonic Art Weeks	Tokyo Sonic Art Weeks
15																								15	TERATOITERA祭@西荻窪 西荻映像祭—TEMPO de ART—	TERATOITERA
16																								16	TERATOITERA祭@吉祥寺 NEO公共—まちプロ会議	
17																								17	TERATOITERA祭@吉祥寺 NEO公共—まちプロ会議	
18																								18	TERATOITERA祭@吉祥寺 NEO公共—まちプロ会議	
19																								19	ネットワークプロジェクト	墨東まち見世2012
20																								20	虫をつくるワークショップ【ひびのこぶえ】	としまアートステーション構想
21																								21	LAND PARKでgood morning～たえはいつちより早く起きてモーニングを食べるとする～[PACK]	
22																								22	足立智美ミュージアム「カス」/プレバントーション・ケー・ジの思想と音楽	
23																								23	大友良英 千住フライングオーケストラ	
24																								24	野村誠 千住じゃれ音楽祭	
25																								25	音まち千住の縁 コアタイム	
26																								26	プレゼンテーションの公開講座	
27																								27	三宅島大学 講座	東京事典 Tokyo Jiten
28																								28	vol.4 プレゼンター：クワクボリョウタ	三宅島大学
29																								29	ドームづくり/VRリアリティ(10.27)	渋谷アートファクトリー計画 DIWO Lab.
30																								30	クレーンアート 川原正と巡る夕入タワー、田アラス、豊洲ドーム	川原正・東京インプレス
31																								31	江戸東京博物館 開館20周年記念特別展「維新の半画家—川村清雄」	東京都江戸東京博物館
32																								32	企画展「徳川家康の肖像—江戸時代の人々の家康像—」	
33																								33	紅葉帯席	
34																								34	操上和美 時のボートレイト ノスタルジックな存在になりかけた時間。	
35																								35	機軸の眼 カメラとレンズ	
36																								36	第23回日本写真作家協会会員展 第10回JPA公募展	東京都写真美術館
37																								37	写真新世紀東京展2012	
38																								38	MOTYニアブル2012 Making Situations, Editing Landscapes 風が吹けば桶屋が儲かる	東京都現代美術館
39																								39	外ロケ/アート美術館展 大地・海・空—4000年の美への旅	東京都美術館
40																								40	TOKYO CRAFTS & DESIGN 2012 プロダクト発表会(仮称)	東京都美術館
41																								41	オハラBOX「ハンセルとグレーテル」	東京文化会館
42																								42	モーニングコンサート vol.63 鷲尾麻衣(ソプラノ)	
43																								43	東京芸術劇場 Presents プラスウィーク2012	
44																								44	クラシカル・プレイヤーズ東京 演奏会	
45																								45	NODA・MAP第17回公演「エッグ」	東京芸術劇場
46																								46	集まれ! 池袋みんなの大遊芸	
47																								47	ストリート・アーティスト・アカデミー 2012	
48																								48	アートの開眼2012—多文化社会と新しいアートセンターの活動	トーキョーワンダーサイト
49																								49	OPEN STUDIO	